

このワークショップでは、名古屋市とケルン市で行った、フォーカス・グループについて報告したい。フォーカス・グループとは、特定のトピックに対して行われる、グループ・ディスカッションのことである。

これまで、発表者を含む研究グループでは、日本とドイツの環境配慮行動とその規定因についての調査を行ってきた。2002年には予備調査として日独の大学生を対象とし、どのような行動を環境配慮行動として認知しているか、質的な分析を行った。その分析を基に質問紙を構築し、2003年には名古屋市とケルン市において、一般市民を対象とした社会調査を行い、環境配慮行動の規定因を検討した。2004年には、その流れを受けて名古屋市とケルン市において、どのようなことが環境配慮行動を実行する上での障壁となっているかを質的に検討するため、フォーカス・グループを実行することとなった。

フォーカス・グループで対象とした行動は、2003年の質問紙調査で測定したのと同じ行動であり、近距離には車を使わず公共交通機関や徒歩、自転車を用いるという交通行動、使い捨て商品を買わないというごみ減量行動の2つである。名古屋市とケルン市において一般市民に参加を呼びかけ、それぞれの都市で25人程度の参加者が得られた。参加者を2つのグループに分け、1つのグループは交通行動、もう1つのグループはごみ減量行動について話し合った。

その結果、名古屋とケルンで類似点も多く見られたが、行動はそれぞれ地域のシステムにより影響されていることが示唆された。交通行動ではごみ減量行動よりも類似点が多く見られた。ごみ減量行動では使い捨て商品の中身に違いが見られた。

フォーカス・グループは住民の意見を知るための質的なデータ収集として役立つだけでなく、参加者同士の相互作用を観察することができ、参加者にとっても他の市民の意見を知ることができるという点で意義があったと考えられる。